

シャンピニオンエキス 美腸寿

当店ご利用者様7割以上がご購入者！
当店人気No1!商品です。

シャンピニオンエキスの消臭機能と新しい機能

がんや感染症などの予防

口臭の消臭

ピロリ菌の増殖抑制

体臭の消臭

慢性腎不全腎機能低下の抑制

便臭の消臭

痛風の改善

便秘と胃腸症状の改善

アレルギー体質関連物質の抑制

善玉ビフィズス菌の増加

抗酸化作用

血液の浄化作用



規格；1箱90粒

販売価格

1個パック **4,600円** (税込)

2個パック **9,000円** (税込)

只今送料無料！(離島以外)

☆現代医学で証明されたシャンピニオンエキス☆

腎機能進行に対するシャンピニオンエキスの効果としては取手協同病院院長 椎貝医学博士および東京女子医科大学の佐中医学博士が臨床試験を行いました、その他の効果としては各専門分野に秀でた著名な先生方によって明らかにされています。

大人気のシャンピニオン？

TV「おもいっきりテレビなど」・各紙に取り上げられた途端当店においても注文・問い合わせが殺到しました。当店はHPに掲載していることもあり、「他社のシャンピニオンエキスを飲んでいるのですがあまり効果がないのでは？」という問い合わせが多くなりました。

何故でしょうか？

調べてみました。、臨床試験で使われた量を飲むことが最低条件であるにもかかわらず、そのような必要である情報が行き届いてないことが分かったのです。

さらに、ちょっと入っただけでも“今話題のシャンピニオンエキス”入り商品などと銘打って高価な商品・あるいは低価格で粗悪と思える商品が多く出回っている事が分かったのです。

当店は“腎機能進行に対するシャンピニオンエキスの効果”という臨床試験を行った取手共同病院 椎貝達夫院長先生からご指導して頂いているお店ですので実際に臨床試験に使用した商品を販売しております。さらに、シャンピニオンエキスの原料の保有権を持つ、メーカー様とお取引がありますので含有量が最も高く価格の安い商品の提供が出来ております。

腎臓病においてはこれといった特効薬がない為シャンピニオンエキスのような食品が“大人気”に繋がっていますが、安全性・信頼性の高い商品をお勧めします。

シャンピニオンエキスの臨床試験

取手協同病院院長 椎貝 達夫先生が臨床試験のさいお使いになった商品が美腸寿です。シャンピニオンエキスを飲むと腎機能の低下が抑えられるようなあいまいな表現で掲載又は報道されていますが実際は違います。腎臓病の食事療法を実行している患者さんが美腸寿(シャンピニオンエキス)を毎日3粒～9粒食し行った結果、腎機能低下の進行を抑える効果があると発表されたのです。さらに、臨床において9例中6例の患者さんに進行を抑える効果があると認められています。ですからすべての腎臓病を患っている方に効果があるのではなく前提として専門医の指導の下、食事療法を行い実行している患者さんにのみ有効であると認められた商品です。私どもネフロン健康食品は臨床試験などの結果有効であると認められた食品のみの販売を行っております。

臨床試験の詳細は続きをご覧ください

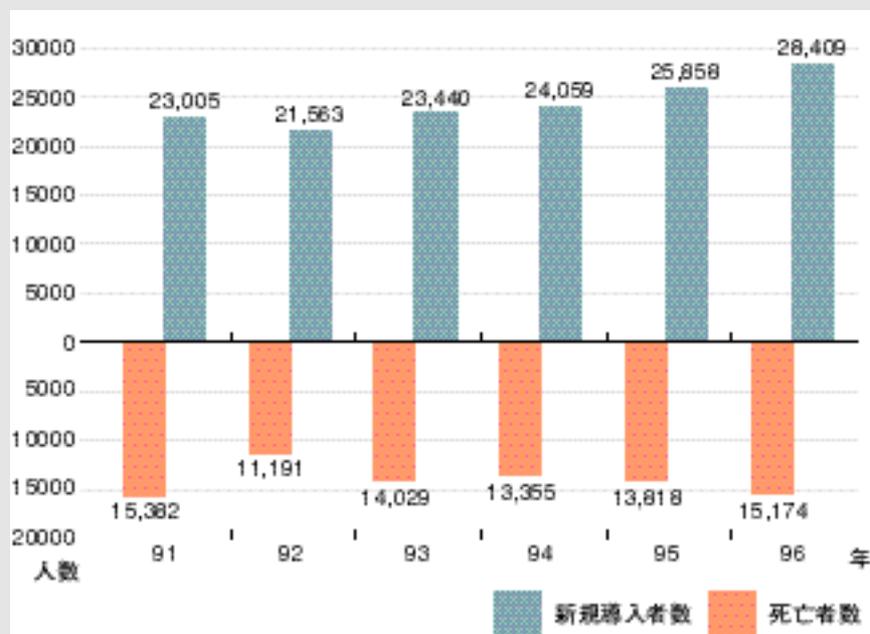
お問合せ先；特殊食品の店 ネフロン
電話；048-813-7656

☆ネフロンは国内で確かな臨床試験結果が得られた健康食品しか販売しておりません！

1. 背景

- 1) 透析患者数は16万人に達している。透析に要する医療費は一兆円(約98億ドル)を越え、透析患者数は更に増加速度を増している。

(図1) 透析療法新規導入者数と死亡者数



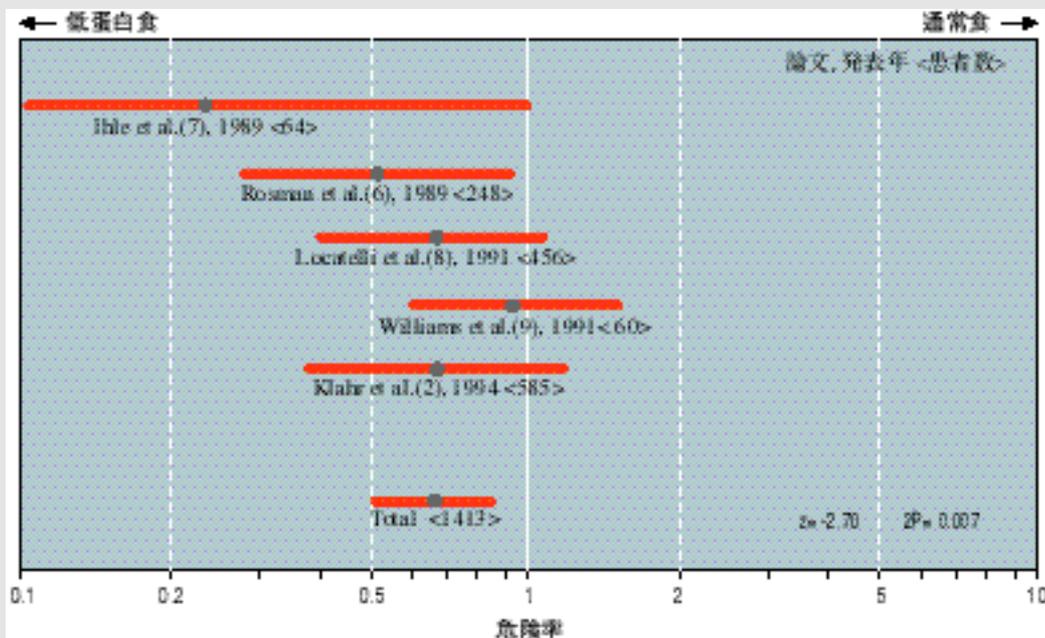
- 2) わが国では腎移植が極端に少なく、透析患者には腎移植の機会はないに等しい。

(表1) 日本の腎移植件数

	腎移植総数	うち死体腎移植数
91年	539	206
92年	524	187
93年	468	177
94年	456	138
95年	357	116

- 3) この対策としては各種の腎疾患のそのものの根本療法がもっとも重要だが、結果から見る限り、効果が上がっていない。
 当面、腎疾患の進行速度を遅くする治療 腎不全保存療法しか手段がない。その治療法の中心は食事療法(低蛋白食療法)である。
 椎貝は、日本腎臓学会より委嘱され、「食事療法ガイドライン」作成のための委員会委員に就き、同ガイドラインを97年2月に発表した。
- 4) 保存療法としては、低蛋白食による食事療法しかない。食事療法の有効性はペドリーニらのメタ分析によっても明らかである。

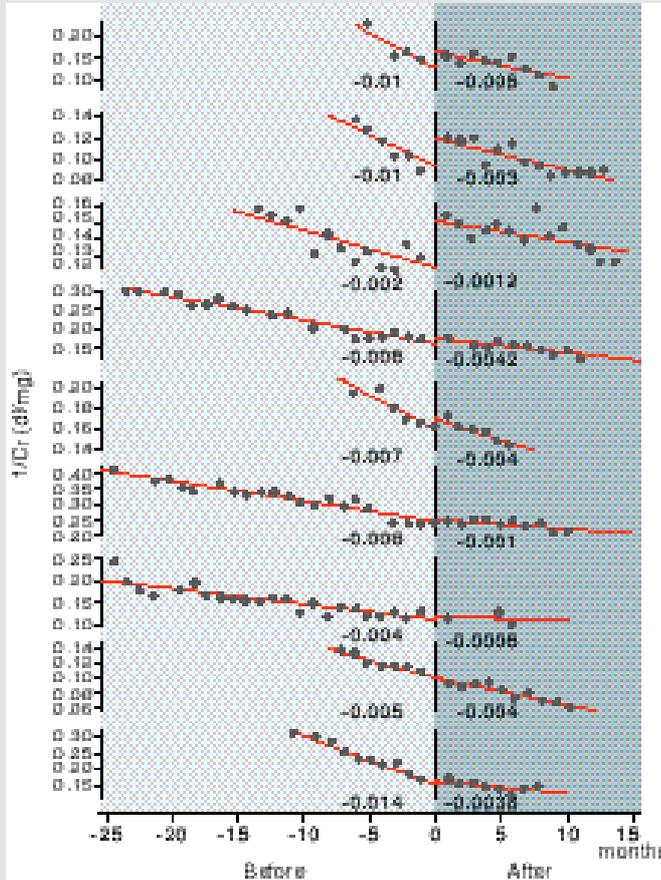
(図2)蛋白制限食の非糖尿病性腎症の進行に対応する効果



Michael T. Pedrini, MD; Andrew S. Levey, MD; Josepli Lau, MD;
 Thomas C. Chalmers, MD; and Ping H. Wang, MD
 "The Effect of Dietary Restriction on the Progression of Diabetic and Nondiabetic Renal Diseases; A Meta-Analysis"
 Annals of Internal Medicine 1996;124:7

- 5) しかし、食事療法にも限界がある。腎保護作用を有する薬剤の使用(変換酵素阻害薬等)や腸管内で発生する毒素を吸着する活性炭(AST-120、クレマジン)が食事療法にさらに、プラス効果を示すことを我々は報告してきた。

(図3) 血清クレアチニン逆数/時間・勾配でみたAST-120の効果(全例低蛋白食実行例)



Akira Owata, Tatsuo Shiigai
 "Effect of Oral Adsorbent AST-120
 Concurrent with a Low-Protein
 Diet on the Progression of Chronic
 Renal Failure"
 Am. J. Nephro. 1996;124-127

AST - 120は、分子量 400 程度までの物質しか吸着しない。腸内で生成されるインドキシル硫酸が腎毒性物質の1つではないかと考えられる。

2. シャンピニオンエキスの効果

1) 方法

クレアチニン・クリアランス 腎機能、正常値 100~110ml/min) 6~14ml/min以下の慢性腎不全患者 10名に、シャンピニオンエキス1日2gを朝夕2回に分け、3カ月以上服用させた。一部の例では、1日4gを服用させた。腎不全の原因となった疾患は8例が慢性糸球体腎炎(GN)で、慢性間質性腎炎(CIN)多発性のう胞腎が各1例ずつある。全例、2~4週間毎に、24時間蓄尿の分析により、低蛋白食が実行されていることが確認されている。

また、血圧も良くコントロールされていることが、外来血圧、家庭血圧記録で確認されている。通常の検査に加え、血中、尿中インドキシル硫酸を測定した。

服用前、6~10ヶ月と服用後3~5ヶ月の腎不全進行速度を血清クレアチニンの逆数(Scr⁻¹dl/mg)及びクレアチニンクリアランスの減少率で比較した。

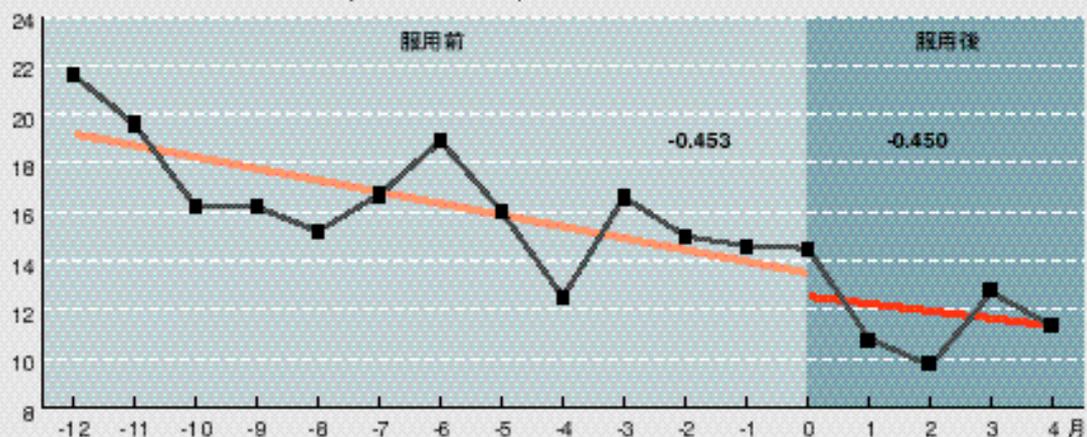
2) 結果

Case毎(Case1~9)の経過(図4)

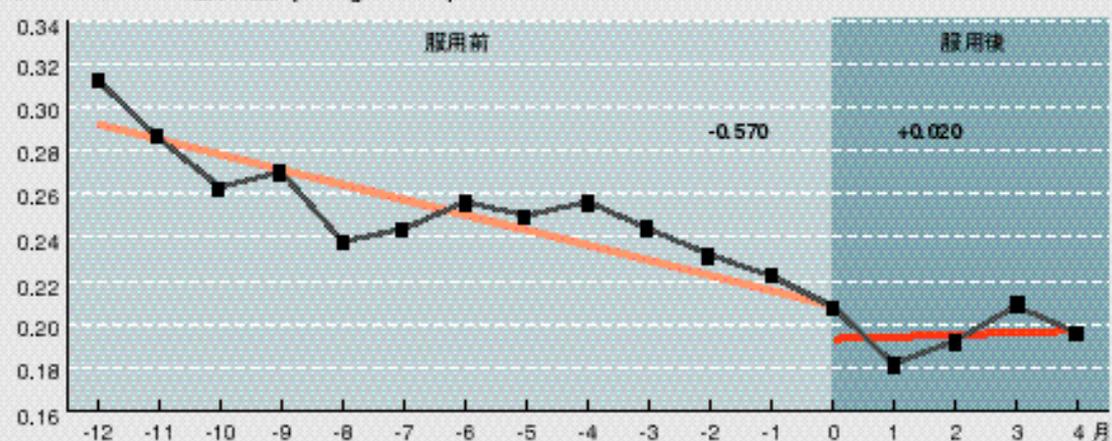
血清クレアチニン値: 血液中の血清クレアチニン値は腎不全の進行度を測る指標として使われる。正常値は女性1.1mg/dl、男性1.2mg/dl。
 クレアチニン・クリアランス: 腎機能(1分間に糸球体で濾過された水分量" GFR ")を表す。正常値は男性で110 ± 20ml/min、女性はこれより約10ml/min.低い。
 クレアチニン逆数値: クレアチニン・クリアランス=尿量×尿中クレアチニン量×1/血中クレアチニン量
 1/血中クレアチニン量(1/Cr)

77歳男性 慢性糸球体腎炎

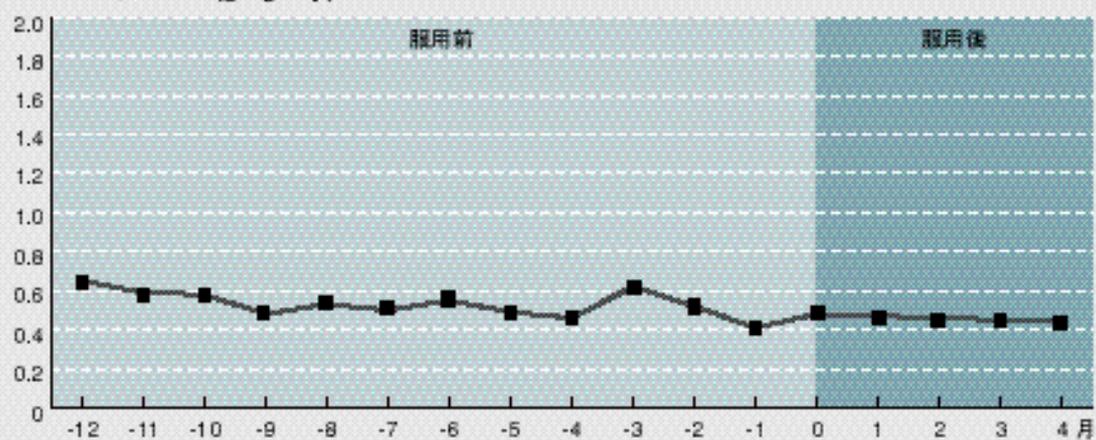
クレアチニン・クリアランス (ml/min/month)



クレアチニン逆数値 (dl/mg/month)

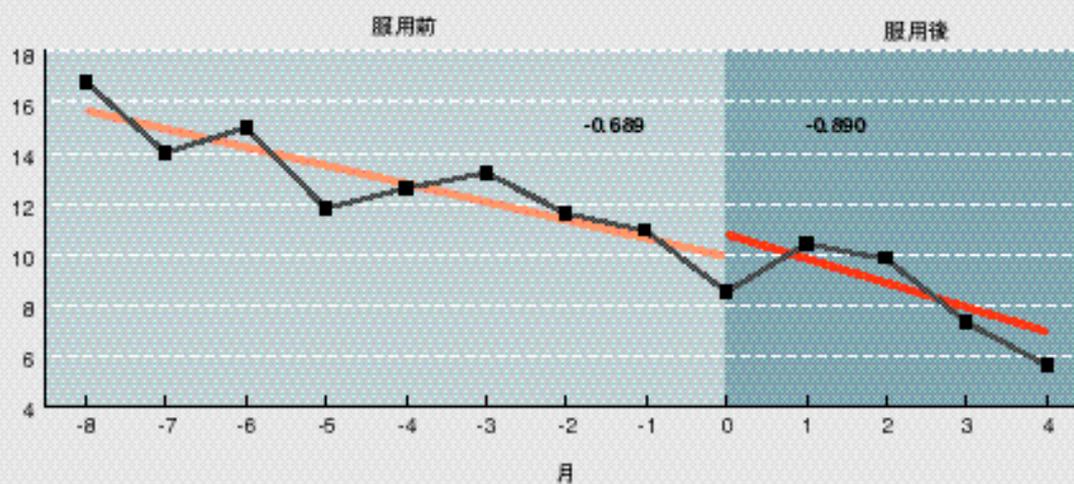


タンパク摂取量 (g/kg/day)

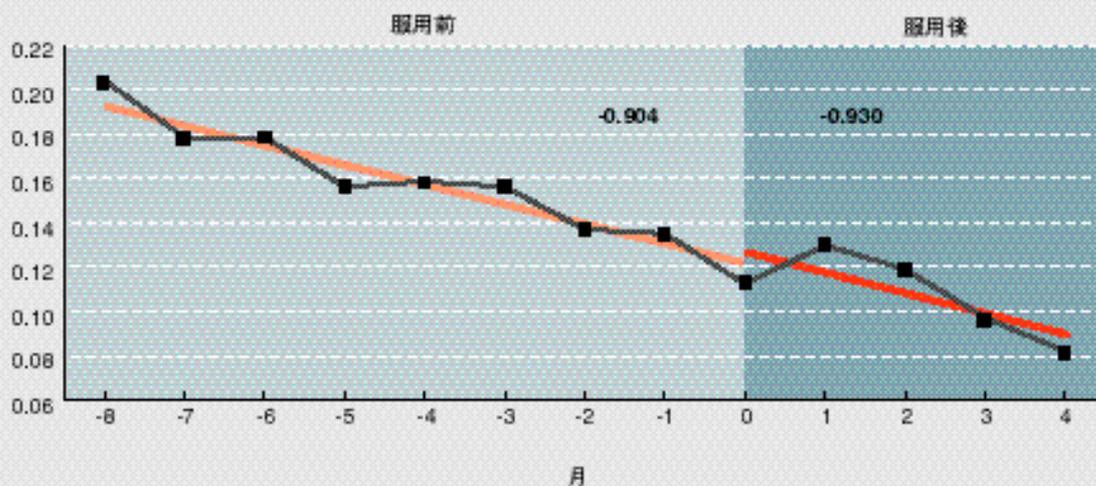


46歳女性 慢性糸球体腎炎

クレアチニン・クリアランス (ml/min/month)

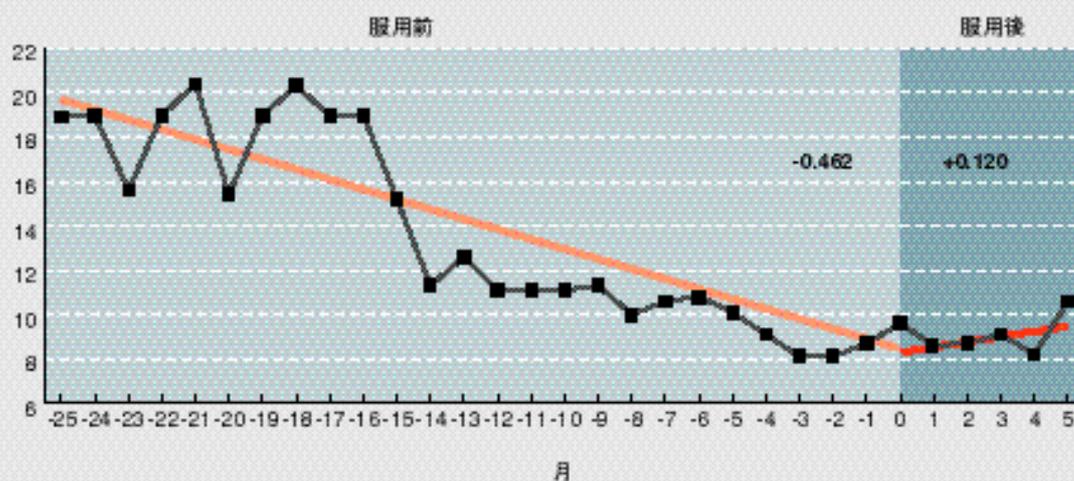


クレアチニン逆数値 (dl/mg/month)



54歳男性 慢性糸球体腎炎
(クレメジン使用)

クレアチニン・クリアランス (ml/min/month)

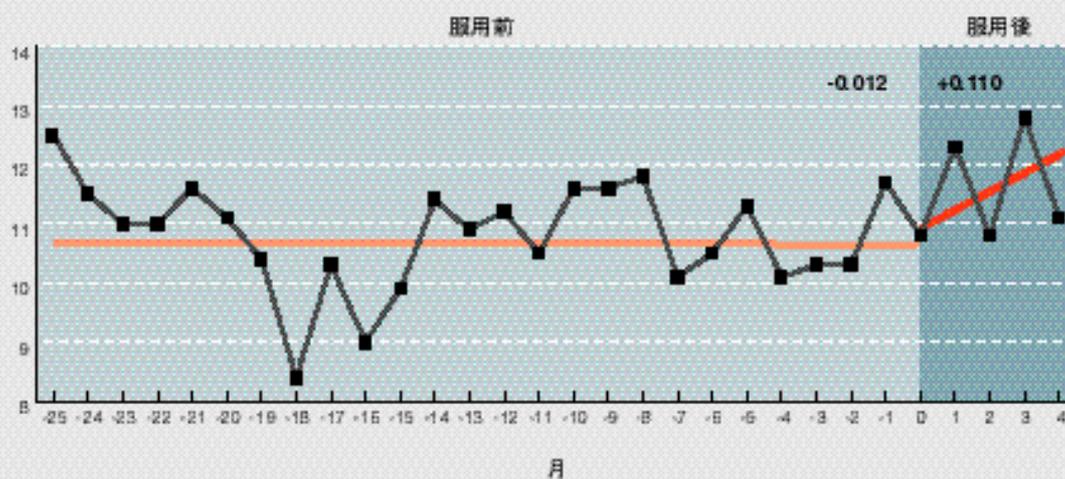


クレアチニン逆数値 (dl/mg/month)



41歳男性 慢性糸球体腎炎
(クレメジン使用)

クレアチニン・クリアランス (ml/min/month)



クレアチニン逆数値 (dl/mg/month)

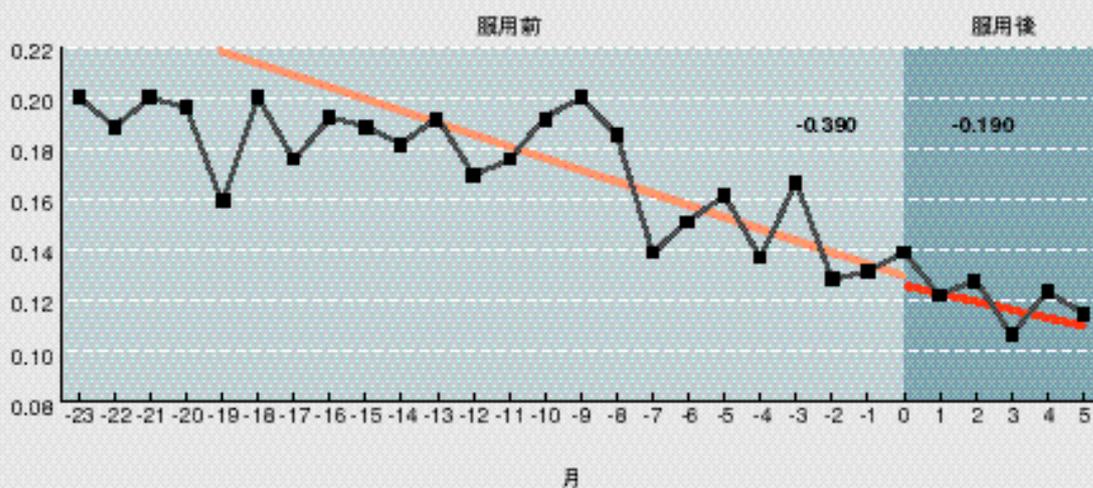


50歳男性 慢性糸球体腎炎

クレアチニン・クリアランス (ml/min/month)

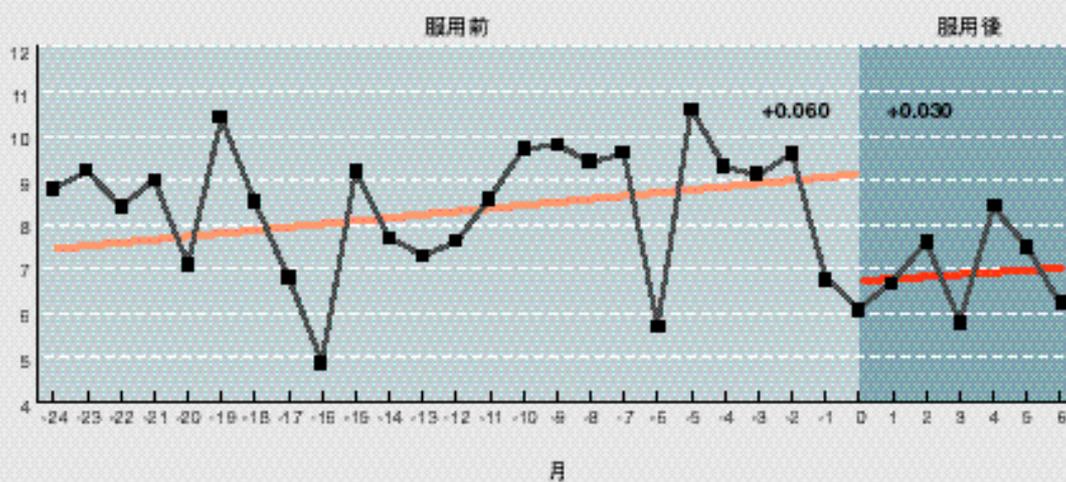


クレアチニン逆数値 (dl/mg/month)

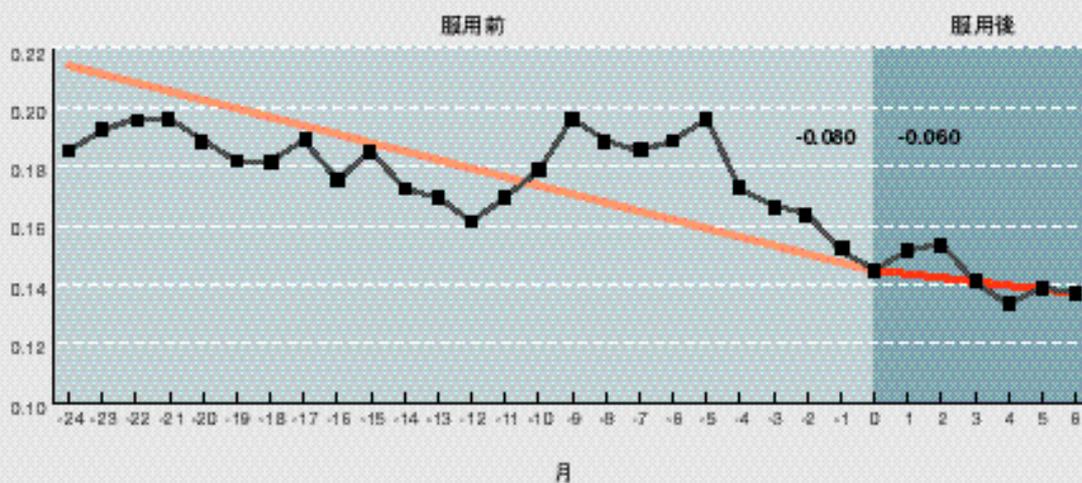


61歳女性 慢性糸球体腎炎
(クレメジン使用)

クレアチニン・クリアランス (ml/min/month)

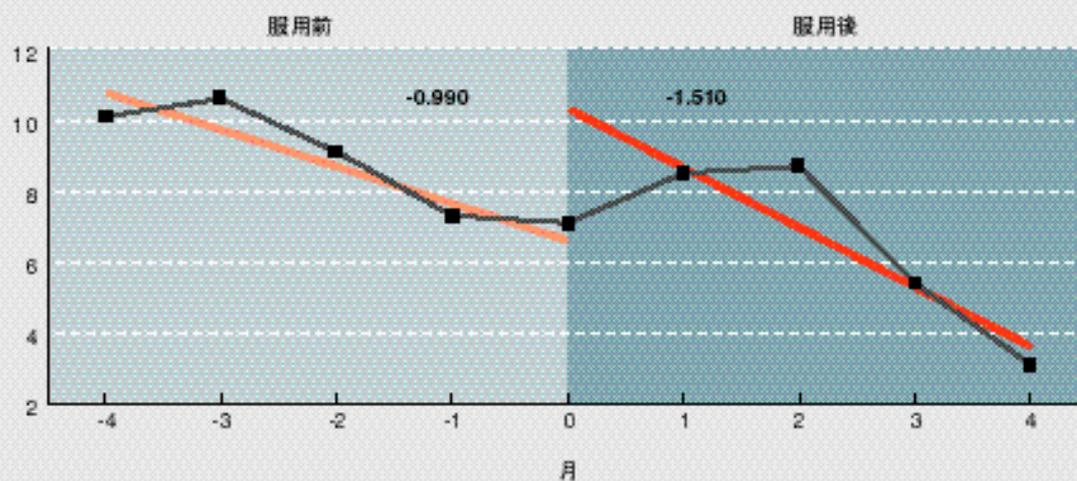


クレアチニン逆数値 (dl/mg/month)

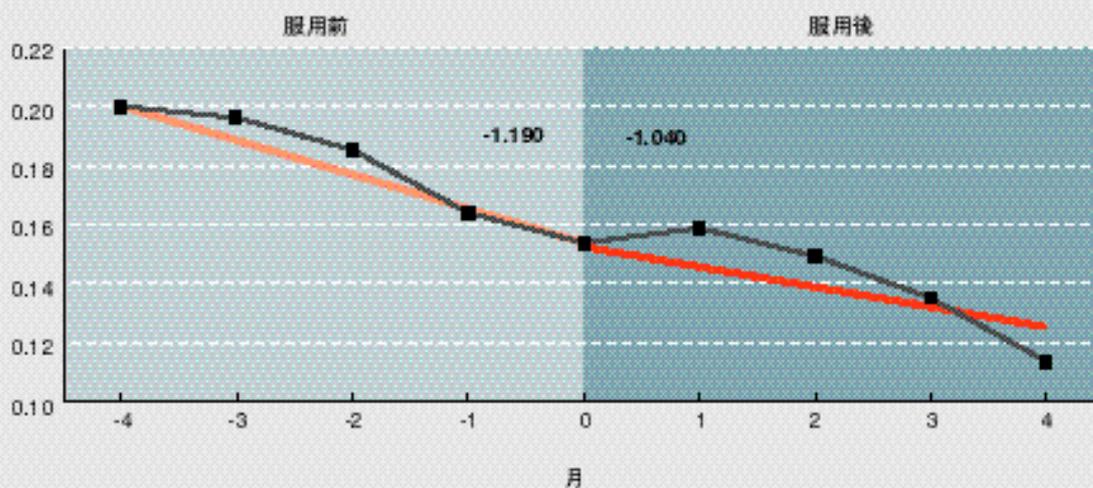


21歳男性 慢性糸球体腎炎
(クレメジン使用)

クレアチニン・クリアランス (ml/min/month)

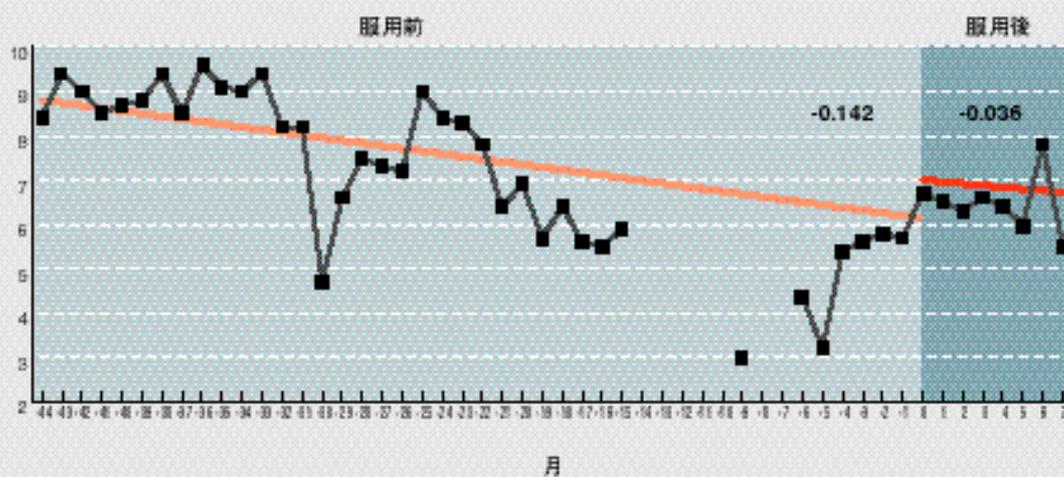


クレアチニン逆数値 (dl/mg/month)

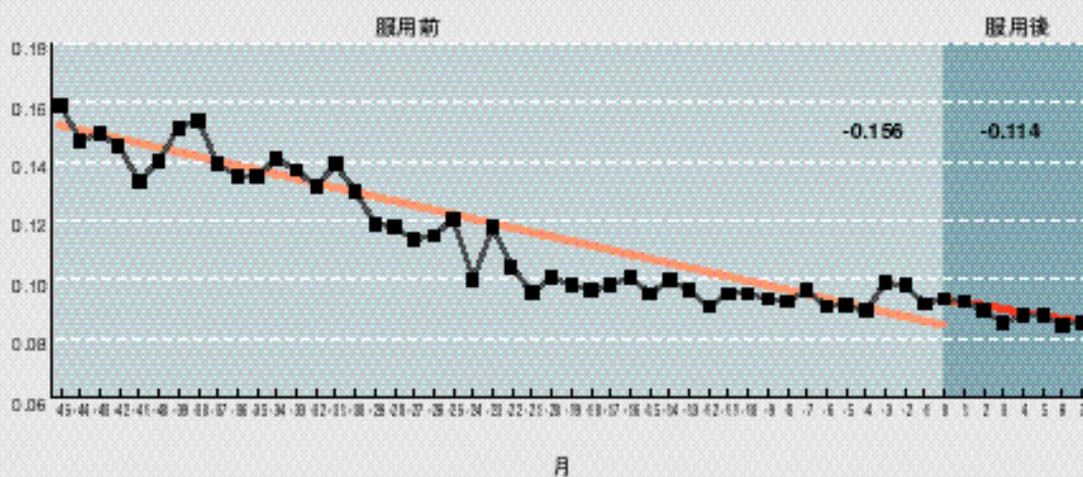


25歳男性 慢性糸球体腎炎

クレアチニン・クリアランス (ml/min/month)

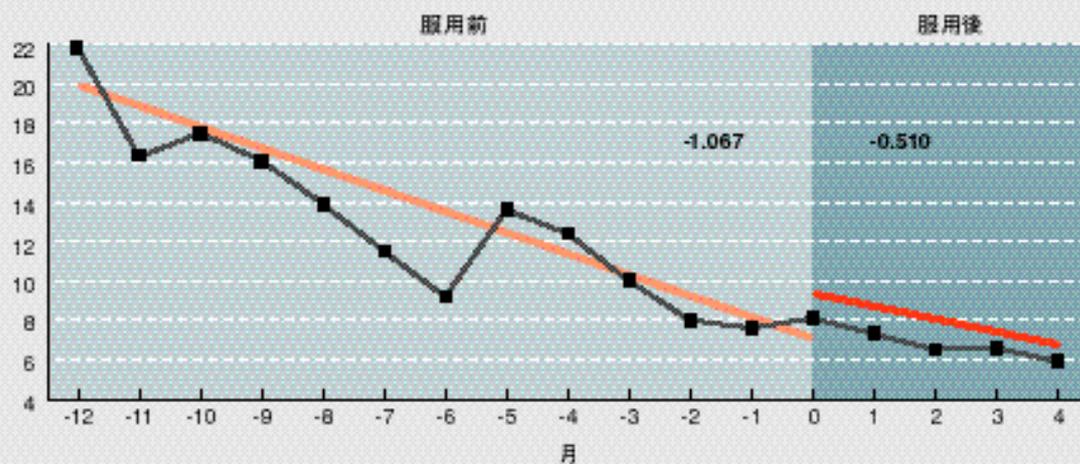


クレアチニン逆数値 (dl/mg/month)

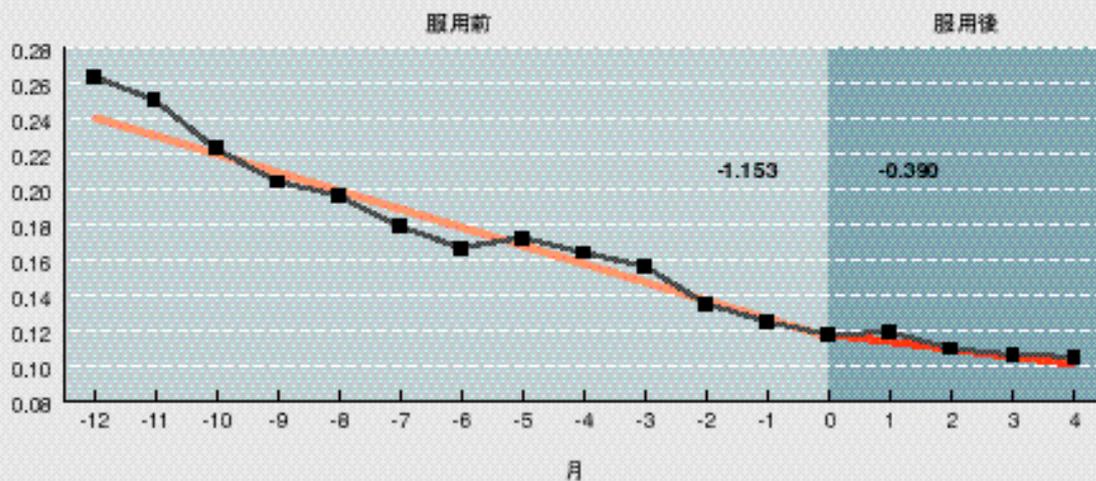


53歳男性 慢性間質性腎炎
(クレメジン使用)

クレアチニン・クリアランス (ml/min/month)



クレアチニン逆数値 (dl/mg/month)



(表2) Ccr、Scr⁻¹でみたシャンピニオンエキスの効果

	Ccr (ml/min/month)			Scr ⁻¹ (dl/mg/month)		
	服用前	服用後	効果	服用前	服用後	効果
case 1	-0.453	-0.450	(-)	-0.570	+0.020	(+)
case 2	-0.689	-0.890	(-)	-0.904	-0.930	(-)
case 3 (K)	-0.462	+0.120	(+)	-0.383	+0.191	(+)
case 4 (K)	-0.012	+0.110	(+)	-0.077	+0.150	(+)
case 5	-0.722	-0.390	(+)	-0.390	-0.190	(+)
case 6 (K)	+0.060	+0.030	(-)	-0.080	-0.060	(-)
case 7 (K)	-0.990	-1.510	(-)	-1.190	-1.040	(-)
case 8	-0.142	-0.036	(+)	-0.156	-0.114	(+)
case 9 (K)	-1.067	-0.510	(+)	-1.153	-0.390	(+)

(K): AST-12 α (ケルミン)服用例

3) 効果のまとめ

血清クレアチニン値の逆数でみた進行速度が30%以上減少した(遅くなった)場合を有効とすると、タンパク制限食下に9例中6例で血清クレアチニンの逆数でみた腎不全の進行が抑制された。

4) 自覚症状・副作用

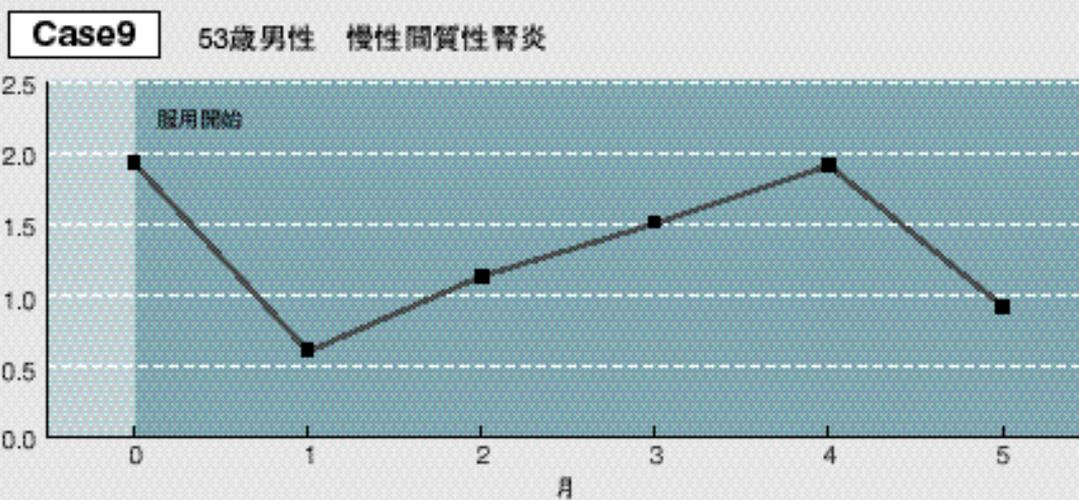
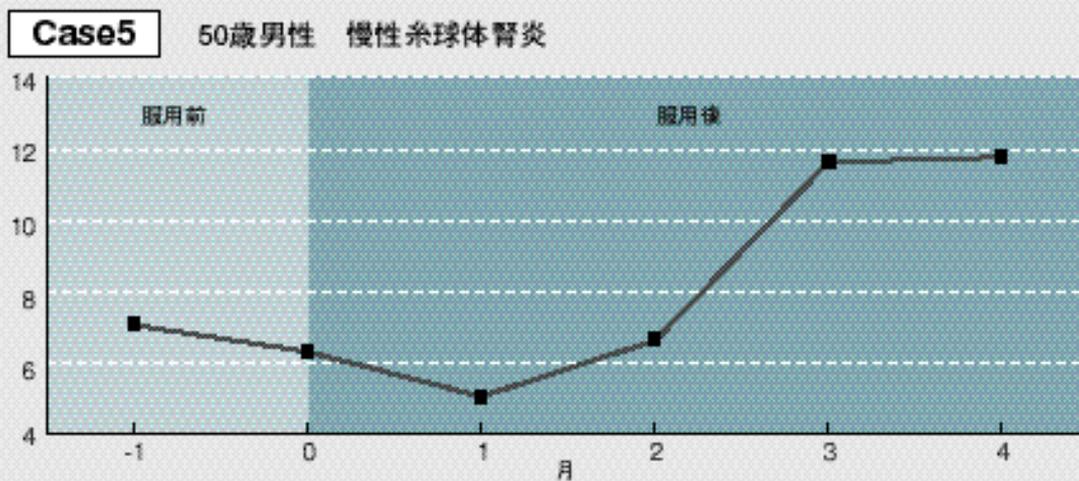
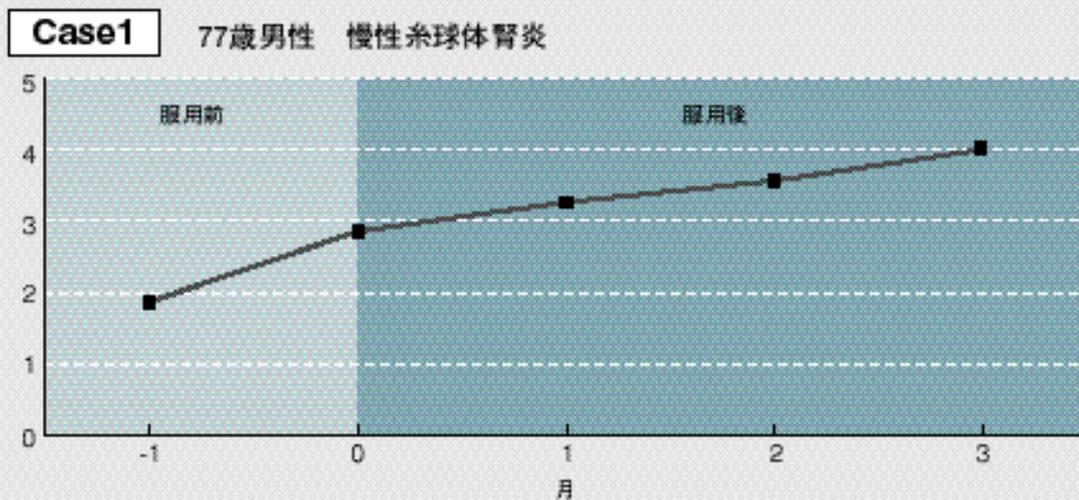
全例が1ヶ月以内に便臭の著明な減少を自覚した。一例が悪心により1ヶ月後に服用を中止した。

5) インドキシル硫酸の変化

尿中インドキシル硫酸排泄量は、シャンピニオンエキス服用前と服用後との比較で変化がみられなかった。

(図5) Case1、5、9の経過

インドキシル硫酸の尿中排泄変化 (mg/day)



6) 結論

本エキスは低タンパク食を実行してもなお進行する腎不全例9例中6例で進行抑制効果を示した。有効例中3例はAST - 120をすでに服用していたがなお進行する例であった。

厳しい条件下にも本エキスは進行抑制効果を示し、本エキスの効果はかなり強力である。また副作用も少ない点から安全性も高く有用性も評価できる。

3. 展望

- 1) 今回の重症例での検討では、本エキスは慢性腎不全の進行を抑制する効果があると考えられる。なお、10例中1例が悪心により中止したが、高度腎不全の場合、尿毒症の症状である悪心が起こりやすい状態である。(本エキスは食品分野での利用実績があり、安全性については問題はない。)

今回はかなりの重症例に用いているので、軽症から中等症にも用いてみる必要がある。用い方としては、ある程度食事療法を実行している患者を対象とすべきであり、食事療法をしないで本エキスのみを服用としても効果はないと思われる。重症例においても、低タンパク食療法を実行していてもなお進行する例には、併用する価値がある。

- 2) 明らかに便臭が減少しているので、腸管で発生している何らかの腎毒性物質が本エキス服用で減少している可能性はあるが、その物質がインドキシル硫酸である可能性は低い。さらに、有効性の機序を検討する必要がある。